

「こどもの日本語ライブラリ」活用ガイド

「こどもの日本語ライブラリ」は、子どもに日本語を教えることに関わる方々のためのサイトです。現場に関わってきた先生のアイデアを集めました。

初期レベルの子どもの指導の目安となる指導計画例、現場の指導上のヒントとなる内容を集めたビデオライブラリ、教科や場面で検索できる語彙や教材データベースなどがあります。

ダウンロードし利用可能な絵カード、ワークシートも小学生向け、中学生向けに作成しました。日本語教室の先生方に提供していただいた教材も掲載致しました。

子どもの学びへのヒントとして参考になれば幸いです。

目次

1. トップメニュー	3
2. 指導計画例	5
a. 指導計画例の活用例	5
b. メインの指導計画例	6
c. 漢字圏文字・語彙 参考指導計画例	6
d. 漢字圏・非漢字圏について	7
e. 指導計画例の目次	8
f. 教科移行	9
g. トピックシラバスについて	9
h. カリキュラム（スケジュール）	9
3. 指導内容 詳細	12
a. 毎回取り入れる内容	12
b. 目標	12
c. 参考教案	13
d. 文例	13
e. 語彙	13
f. 教材	13
g. 備考	14
4. 基本検索	15
a. 語彙検索	15
b. 文例検索	17
c. 教材検索	19
d. 指導事例検索	22
5. 著作権、ダウンロードなど	22

1. トップメニュー



● 指導計画例

小学生低学年、中学年、高学年、中学生の4つの学齢別に、日常・学校生活をはじめ学校行事、教科を話題（トピック）とした指導計画例を見ることができます。

それぞれのトピック等の項目には指導案があり、学習項目、目標、参考教案、語彙、文例（表現）などの詳細が掲載されています。

指導計画例としての利用に限らず、学習していない学習項目があるかどうかのチェックリストとして利用したり、活動案のアイデア集として利用したり、教科の取り込みの項目を参照したりするなど、教室や子どもの状況に合わせてご利用ください。

● ビデオライブラリ

日本語学習初期の子どもへの接し方や、教材の活用方法などの子どもの日本語指導上のヒントとなる内容を動画で見ることができます。各テーマ1分から数分の短編で何度でも再生でき、パソコンやスマートフォンのような携帯端末からでも閲覧可能です。

● 基本検索

活動や指導を考える際に参考となる内容を集め、検索または一覧できるようにしました。「学校行事」「運動会」「動詞」のように、場面や品詞による語彙の検索をしたり、子どもの日常生活や学校生活などの場面に即した表現を学ぶための絵カードやワークシート、各種出版教材の検索が可能です。教材の多くは、指導計画例の中で使い方を示しており、実際にダウンロードし利用することができます。

- ・ 語彙検索
- ・ 文例検索
- ・ 教材検索
- ・ 指導事例検索

● 日本語指導Q&A

このサイトの内容を現場の日本語指導にどのように活用できるのかをQ&A方式で短い文章にまとめました。指導計画例やビデオライブラリといった、サイト内の各機能の説明だけでなく、母語のサポートや、教科教育への導入といった、年少者日本語教育指導のヒントとなる内容を含めています。

2. 指導計画例

このサイトの指導計画例は、日本語に初めて触れるレベルから円滑な就学・通級を目指す初期段階を想定して作られました。初期段階でカバーしておくとい話題（トピック）を選び、学校生活や教科を通じて、会話における言語機能、会話や文字語彙を学習する配列になっています。

日本語の学習を始めたばかりの子どもが、日本の生活に慣れ、学校生活で使う言葉や学校生活について理解し、教科で使う日本語に触れていくレベルを想定し、最初の 120 時間相当（会話 80 時間、文字・語彙 40 時間）の指導案を掲載しました。

トピック等一覧表を利用して、学習の済んでいない部分だけ取り出して、利用することもできます。また、日本語がある程度できる子どもでも、教科の単元、学校行事などの分野で知らないことが含まれている場合もありますので、必要に応じてご参照ください。

また、初期日本語指導に短い時間しかかけられない教室のために、30 時間相当の指導計画例も用意されています。

a. 指導計画例の活用例

学習状況の確認として（トピック等一覧表の活用）：学齢、日本語レベルが様々な子どもたちが、一つの教室で学習する際に、子どもたちの言語習得状況をジグソーパズルのようなものと考えてみてはいかがでしょうか。個人差や言語体験の影響により、一人一人ジグソーパズルの欠けているピース（未習項目）は異なっていると言えるでしょう。このサイトのトピック等を中心とした指導計画例は、必ずしも順番通りに利用する必要がなく、必要な指導案だけ取り出して使えますので、レベルの異なった子どもが混在する場合に、個々の学習状態を把握したり、指導計画を立てたりする際活用できます。

例えば、A 君と B ちゃんの共通未習部分の授業を計画することに役立てたり、A 君にある課のワークシートをしてもらいながら、B ちゃん与会話練習をする授業案を立てたりするなど、それぞれの子どもの進捗管理がしやすくなります。

学習の進捗管理についてはいろいろな方法があり、教室で使っている教科書が何ページまで終わったかを記録することで、学習の進み具合を確認したり、引継ぎに利用したりしていることが多いようです。多くの教室では複数のテキストや教材を組み合わせていることも多く、どこまでどれだけ学習しているかについて、共有の学習進捗チェックシートが必要な場合も少なくありません。指導計画例は、教室で共有することで、指導の計画だけでなく、先生同士で教材の組み合わせなどの情報共有がしやすくなったり、「ここは終わった、ここはまだ」という一覧表として使ったりすることもでき、指導の引き継ぎにも活用できます。

補完的な指導計画例として：指導計画として利用するほかに、すでにお使いのテキストや指導計画を補う項目があるかどうかを確認し、補う形での利用ができます。「この項目はできているな」「この項目はやっていないから入れてみようか」などのチェックリストとして参照ください。

活動のアイデアとして：トピックや文法項目の指導、指導案のヒントとして利用ができます。現場に関わってきた先生のアイデア集として、指導上のヒント、新しい指導項目などに参考にしてください。子ども一人一人に対応しなくてはならない先生方のお役に立てればと思います。

b. メインの指導計画例

指導計画例は、学齢と学習時間を基に選ぶことができます。

【学齢】 小学生（低・中・高学年）、中学生

【時間】 120 時間相当、30 時間相当

- ☆ 120 時間相当（会話編 80 時間、文字・語彙編 40 時間）毎日 2～3 時間ずつの学習でおよそ 2～3 ヶ月で履修する。もしくは、毎日 1 時間ずつの学習でおよそ半年で履修する。
- ☆ 30 時間相当（会話編 20 時間、文字・語彙編 10 時間）毎日 1 時間ずつの学習で、およそ 1 ヶ月で履修する。もしくは週 1 回でおよそ半年で履修する。宿題、家庭学習でカバーしながら速習することも想定する。

さらに、配分できる時間や学習者の状況によって、柔軟に組み合わせられるようそれぞれの指導計画例は会話編と文字・語彙編に分かれています。

【会話編と文字・語彙編の組み合わせ方】

例 1 会話を 2 時間でゆっくりと進め、文字・語彙 1 時間

例 2 会話 1 時間、文字・語彙を丁寧に 2 時間

例 3 会話はある程度できているので不足分のみ指導し、文字・語彙を中心にすすめる

文字・語彙の学習は家庭学習も大切になってきます。ひらがな、カタカナ、漢字の「ワークシート」、「ことばの練習帳（ひらがな編、カタカナ編）」などがダウンロードし利用できますので、宿題の意義や習慣を理解してもらいながら、できるだけ家での勉強の習慣につなげることが大切です。

c. 漢字圏文字・語彙 参考指導計画例

漢字圏の学習者の場合、文字（漢字）の意味が理解でき文字の読み書きそのものに慣れているので、

そういった学習者の特徴をいかした指導計画が有効です。そのため、読み方や形の違いなどを中心に学習時間を配分した漢字圏用の指導計画例を小学生高学年、中学生用に用意しました。学習者の状況に応じて、小学生高学年以上の文字・語彙指導計画をご参照下さい。漢字圏出身の小学生低・中学年に関しては、メインの指導計画例を利用ください。

d. 漢字圏・非漢字圏について

出身地や母語、文字（漢字）学習の有無だけでは漢字圏と定義できません。漢字圏といわれる国の間でも、教育環境の違いで、文字（漢字）指導を受けられなかったり、生活適応に時間がかかったりする場合があります。そこで、このサイトでは学習者の文字・語彙に対するレディネス（準備程度）を目安として「漢字圏・非漢字圏」と呼んでいます。

出身地が漢字を使う国でも、子どもの漢字学習が十分でない場合は非漢字圏用の指導計画例を使うことをお勧めします。例えば中国の都市部出身の高学年や中学生であれば、漢字の読み書きが定着している場合がほとんどです。その場合の文字・語彙指導は、漢字圏用の指導計画例やワークシートを使い効率のよい学習を目指しましょう。

個々の学習者の状況に応じて指導方法や教材を検討していく必要があります。

e. 指導計画例の目次

指導計画例の学齢をクリックすると、指導計画例のトピック等一覧表（指導計画例の概略）が表示されます。

各課で扱うトピック（話題）や場面

クリックすると各トピックの「学習目標」一覧が「語彙」一覧、「文例」一覧に変更可

クリックすると各トピックの指導案、教材、使用語彙などの指導内容詳細

No.	トピック等	学習目標	詳細
1	私のこと・先生のこと	自分の名前を言う / 先生の名前を知る / 名前を呼ばれたら「はい」の返事ができる	詳細
2	いいこと・だめなこと	学校内や登下校時のいいこと・だめことが分かる	詳細
3	トイレ	許可を求めたり、希望を伝えたりするための表現を知る	詳細
4	私の／／／の持ち物	学習道具の名前を言う／ 学習道具があるか／い／かを伝えることができる	詳細
5	教室の勉強	授業での指示の言葉を知り、行動することができる	詳細
6	学校探検（屋内）	学校内の場所の名前を言う／場所の尋ね方が分かる	詳細
7	学校探検（外）	運動場にある道具や施設の名称がわかる	詳細
8	私の席 / 身の回りのもの	自分の席がどこか言える / 身の回りのものの名前を覚える	詳細
9	私の顔／／／の顔	顔の各部の名前を知る	詳細
10	私の体・／／／の体	体の各部分の名前を知る	詳細
11	病気	体の	詳細
12	「なか」	けか	詳細
13	学校を休む	学校	詳細
14	学校の時間割	時間	詳細

各課で習得させたい、目標とする言語機能（許可を求める等）、言語活動、文字、語彙など

左のトピック欄を参照することでトピックシラバスとしての配列を確認できます。学習目標の欄で言語機能別に見ることで、言語機能を軸として履修状況の確認をすることもできます。

この指導計画例は話題（トピック）を中心に構成されていますが、文型（文法項目）等を確認したい場合は、「学習目標」をクリックし、文例を表示してください。

教室や子供の状況に合わせて、教える順番や指導案が変わっていくのは当然です。

例えば、教室の活動の一環として「運動会」に参加するときは運動会の話題の指導案を参考にする、絵カードやワークシートだけを利用する、語彙の確認に利用するなどという使い方もあります。

f. 教科移行

算数や理科、音楽、体育などの教科を通して、日本語のことばを学ぶことは、子どもが学校生活をおくるために大切です。この指導計画例では、日本語の基礎の早い段階に教科内容を通じた学びの指導案を取り入れました。

g. トピックシラバスについて

このサイトの指導計画例は、話題（トピック）を中心に学習者が日本語を学べるよう配列してあります。また文型を中心とした構造シラバスの良い点を取り入れるよう心がけました。話題（トピック）は、小中学生に身近なものや興味のあるもの、学校生活に関連したものなどを取り上げてあります。そして、話題（トピック）を中心とした学習活動を展開するために必要な語彙や表現、文法項目を選出し、それらが定着しやすい教室活動の展開を提案しています。

シラバスとは：「何をどのような順序で教えるか」という学習項目内容の一覧です。

主なシラバスの種類

- ・ 文法・構造シラバス：文法項目や構造を中心に選択・配列・提示を行う。
- ・ 概念・機能シラバス：学習者が表現する「意味」と実際に言語を使う際の「機能」に基づく。
例：依頼、勧誘、許可を得る、約束、感謝
- ・ 状況（場面）シラバス：状況や場面ごとに使われる言語項目に基づくシラバス。例：「レストランでの食事の注文」「税関にて」
- ・ トピック（話題・内容）シラバス：「学校生活」「料理」「趣味」「家族」「買い物」など話題（トピック）を選び配列されたシラバス
- ・ タスク中心シラバス：コミュニケーション上解決すべき課題を選定して配列する
例：「欠席の連絡の電話をかける」「道順を教える」
- ・ 語彙シラバス：使用頻度を尺度として語彙を配列したシラバス

『応用言語学辞典(研究社, 2003 年)』より抜粋

小学校低学年の児童は、発達的にも言語を構造面から学ぶ準備ができていません。トピックや場面を中心としたシラバスの中で、アクティビティを通して、言語を習得させたいと考えます。また、高学年の児童や中学生であっても、120 時間という限られた時間の中では、構造を中心としたシラバスで学習するより、トピックを中心としたシラバスの中に言語構造を組み入れたシラバスで学ぶ方が、より多くの「気づき」が生まれ、言語の定着が進むのではないかと考えます。

言葉の習得は、学習者の意識を内容（コンテンツ）に向けさせ、「意味のあるやり取り」をする中で進みます。トピックシラバスでは、話題を通して、文脈の中で文字や語彙、ことばの持つ機能に触れながら学んでいきます。

h. カリキュラム（スケジュール）

● 会話編と文字・語彙編

会話編と文字・語彙編はできるだけ同じ日に組み合わせて利用することが効果的です。教室によって時間数が異なるので、自由に組み合わせができるよう、指導計画例は会話と文字・語彙を別々に

用意しました。

例 1：会話 1 時間 文字・語彙 1 時間 （1 日 2 時間）

例 2：会話 2 時間 文字・語彙 1 時間 （1 日 3 時間）

● 指導計画のスケジュール

指導計画をどのペースで進めるのかも、教室や子どもの状況で大きく変わります。

指導案の中心は大きく分けて 3 つになります。

（ウォームアップ、毎回取り入れる内容、前時の復習）

① 導入（新規の項目の紹介・導入）

② 展開（活動 1）

③ 定着（活動 2）

（まとめ・宿題の提示）

初期日本語学習においては、一つ一つのスキルを積み上げていくよう活動が構成されているため、

①→②→③の流れをなるべく省略することなく行うことが大切です。ペースの異なりから、指導案が 1 回の授業で終わらない場合の授業の組み立て方のアイデアを下記のように表にしましたので、ご参照下さい。

例えば、通常のクラスでは 1 指導案を 1 回の授業で進めていくとします。

ある指導案 A を初めて教える場合、まずは前回の復習をしてから、参考教案「導入」の部分などを参考に、学習の心構えや学習項目への関心をもってもらえるような時間を取ります。学習者の関心が高まった所で、具体的な学習項目を学び練習する「展開」の時間を取り、学習者が文型、表現、文字・語彙などに慣れてきたら、定着につながる応用的な内容にチャレンジしてもらいます。最後は「できた！」という達成感を持たせて終わらせるとよいでしょう。

2 回目の授業では、指導案 B を「復習と導入」「展開」「定着」の形で進めます。

しかし、学習者によってはゆっくり進めたほうがいいのか場合もあります。じっくりと復習の時間を取る余裕がある場合は、1 つの指導案を 2 回の授業ですすすめることも有効です。指導案 A に対して、1 回目の授業では、前時の復習、導入の時間を取ったあと、学習者の様子を見ながら、学習項目を教え、十分に練習する時間を取ります。初めての項目なので、何度も繰り返したり、間違いを訂正したりしながら、十分に慣れるように時間を取ります。2 回目の授業では、「導入」の時間で再び学習項目の確認をし、もう一度練習を積み上げます。その後、「定着」の時間を取り、繰り返しの中で

学習項目に自分なりの気づきがあるかを確認したり、他の場面で応用してみたりという活動を行います。

学習者によって、学習項目によって、また教室のスケジュールによって、指導案は進度を調節しながら、1回～複数回で進めるとよいでしょう。

(1) 標準の進度：
1 指導案を 1 回の授業時間で進めていきます。

1 回目	2 回目
指導案 A の導入	指導案 B の導入
指導案 A の展開	指導案 B の展開
指導案 A の定着	指導案 B の定着

(2) 進度を少し遅くしたいクラスの場合：
1 指導案を 2 回の授業時間で進めていきます。
2 回目の授業では、復習をじっくりとした後、定着の活動を行います。

1 回目	2 回目	3 回目	4 回目
指導案 A の導入	指導案 A の導入 (復習)	指導案 B の導入	指導案 B の導入 (復習)
指導案 A の展開	指導案 A の展開 (復習)	指導案 B の展開	指導案 B の展開 (復習)
	指導案 A の定着	指導案 A の定着 (復習)	指導案 B の定着

(3) 進度を更に遅くしたいクラスの場合：1 指導案を 3 回の授業時間で進めます。活動の一つくらいにとどめ、後は復習、練習、個別指導に時間を費やすイメージです。

1 回目	2 回目	3 回目	4 回目	5 回目	6 回目
指導案 A の導入	指導案 A の導入 (復習)	指導案 A の導入 (復習)	指導案 B の導入	指導案 B の導入 (復習)	指導案 B の導入 (復習 2)
	指導案 A の展開	指導案 A の展開 (復習)	指導案 A の展開 (復習 2)	指導案 B の展開	指導案 B の展開 (復習)
		指導案 A の定着	指導案 A の定着 (復習)	指導案 A の定着 (復習 2)	指導案 B の定着

3. 指導内容 詳細

各指導計画例には、指導内容、指導案として詳細が用意されています。

毎回取り入れる内容：繰り返し触れることでなれ、積み上げていきたい内容を例として掲載しました。

指導計画 詳細

[指導計画例一覧に戻る](#)

小学生低学年
120時間
会話編

毎回取り入れる内容	朝の会、帰りの会などを利用し、あいさつ、曜日、天気、数字は毎回の授業で少しずつでも継続して取り入れていきましょう。(あいさつ、カレンダーの歌) 例:「おはようございます。今日はX月X日X曜日です。今日は晴れです。」 今日の数字(カードや板書を利用して、全員で音読するなど)	
トピック等	いいこと・だめなこと	
目標	学校内や登下校時のいいこと・だめなことが分かる	
参考教案	活動内容	講師
	<導入>	学習者
	テキストの絵を拡大コピーしたものを用意。まず、ゴミを捨て捨てている女の子の絵を黒板に貼って、「だめ」と言い、Sにも言わせる。次に、ゴミをゴミ箱に捨てている女の子の絵を貼って、「いい」と言い、Sにも言わせる。それぞれの絵の下に「だめ」「いい」と書き、もう一度Sと一緒に読む。	黒板に貼られたイラストを見る 「いいことか悪いことか分かり、その後について言う」 「いい」 「だめ」
	トイレの後、手を洗わずに行こうとする子。手を洗っている子のイラストを見せ、指さしながら「だめ」「いい」と言い、Sにも言わせる。	「いい」 「だめ」
<活動>	Sと一緒にテキストのイラスト(できればコピーし、1枚ずつ切り離しておくとよい)を見ながら、それぞれ「いい?」「だめ?」と聞き、Sに回答させる。	「いい」または「だめ」
	授業中、トイレへ行きたがっている子のイラストを見せ、子どもがどうしたいのか、Sに考える時間を与える。「先生、トイレ、いいですか?」というフレーズに気づかせ、練習させる。その際、イラストのTの表情にも注目させ、授業中にトイレに行くことはあまりいいことではないことも気づかせる。同様に、「先生、水、いいですか?」の表現の練習もさせる。	「先生、トイレ、いいですか?」 「先生、水、いいですか?」
	最後にもう一度それぞれのイラストを見て「いい」「だめ」かを言わせる。	「いい」または「だめ」
語彙	名詞	水 トイレ
	動詞	
	形容詞	いい だめ
	その他	

使用語彙：この指導案で初めて導入される語彙などが提示してあります。

(この指導案の段階で覚えなくてはならない語彙ではありません。クラスの状況、生徒のレベルに応じて定着する語彙を取捨選択して下さい。)

各指導案には、学習目標、参考教案、参考教案で使われている語彙や絵カードの情報の提示があります。

a. 毎回取り入れる内容

指導計画例では、「毎回取り入れる内容」としてこよみ、数字など毎日少しずつ触れてほしい内容を、毎回の指導案に取り入れました。

ここでは日本語学習の進捗に応じてさまざまな指導を提案していますが、子どもの定着度やクラスの状況にしたがって内容を少しずつ広げていくことが大切です。授業の始まりにはかならずこれがある、というパターンがあると子どもは授業への気持ちの切り替えができ、安心して授業参加ができます。ビデオライブラリに「継続指導」として実践例がありますので、そちらもご参照ください。

b. 目標

子どもの視線からは、「話題(トピック)」を中心に学習していても、教える側は学習項目をしっかり把握する必要があります。特定の話題について楽しく会話することが目標なのではなく、その話題を通して日本語の使い方を学んでもらうためには、その日に何を学ばせたいのかをはっきり

12

させましょう。そうすると、重点的に扱う内容とそうでないものの見極めが可能になります。その点で、指導案によっては、文法項目を学習目標に設定している場合もあります。

1、2回の授業で定着しにくいので、段階的に、難易度をあげながら類似の項目も入れ込んでいきます。

c. 参考教案

トピックに沿って学習目標に到達するための導入や練習などの活動の組み立て方のアイデアが書かれています。T（指導者）のことばがけ※や指導内容、S（学習者）の予測される反応や学習活動に分けて書かれています。

また、参考教案には、絵カードやワークシートなどの利用について書かれたものがあり、その多くはこのサイトリジナルのワークシートや絵カードとして、「基本検索（教材）」からダウンロードし利用可能です。

d. 文例

学習目標をカバーするために教室で主に使われる表現（会話編）とことばがけ例（文字・語彙編）を示しています。繰り返し耳に入るようにすること、子どもが発話したらほめることなどを意識します。文型、文例は、基本検索の「文例」検索から検索をすることもできます。例えば「NはNです」を検索し、指導案の番号を見ていただくと、その文型を指導する指導案を確認することができます。

e. 語彙

活動中に出てくる語彙をリストアップし、名詞、動詞、形容詞、その他に分類しました。

指導案にリストアップした語彙とは、その日にすべて覚えなくてはいけない語彙ではなく、授業中に子どもたちが耳にしたり、使ったりする語彙ということです。大切なことばは、繰り返し学ぶことで少しずつ覚えていくようにしましょう。特に、生活に密着したこよみ、天気、数字などの語彙や表現は、指導計画例の「毎回取り入れる内容」に盛り込んであります。クラスの状況、生徒のレベル、地域等に応じて定着を目指す語彙を取捨選択、また追加補充して下さい。

f. 教材

この学習目標とトピックをカバーするのに利用できる教材や、関連のあるテキストの課の番号が示されています。また、絵カード、ワークシートについては、「基本検索（教材）」からダウンロードし利用可能です。

ワークシートは、「できた！」という達成感をもたせるような内容になるよう以下のものを用意いたしました。

- 会話編で扱ったことばとイラストをマッチングさせ、内容理解を深めるワークシート
- インタビュー活動を通じて会話を促すワークシート
- 母語で意味を理解しつつひらがなやカタカナの読み学習を進められる学習帳(学習記録表付き)等

g. 備考

実際の指導に当たっている先生方からいただいた指導のヒントを記載しました。

指導をするに当たって「こんなことに注意する」「ここを観察する」などのポイントや、活動の展開の仕方などについても触れてあります。

4. 基本検索

トップメニューの「基本検索」をクリックし、検索したい項目を「語彙・文例・教材・指導事例」より選択します。

a. 語彙検索

語彙検索に収められている語句は、初期指導として約 120 時間までの学習を想定しています。そのため、年少者の日本語教育の現場で用いられている代表的な教科書を中心に語彙を抽出しました。120 時間くらいまでの初期指導の想定ですので、教科語彙については、基本的に多くは取り上げていません。ただし、教科移行の指導計画は含まれていますので、一部の教科語彙については取り上げ、リストの中に収めています。また、年少者日本語教育の実践者や専門家のアドバイスにより、最低限必要な教科語彙以外に、特に学校生活で必要と考えられる定型・慣用表現も入れることにしました。その他、年少者日本語教育の現場の先生方からの声を反映した語彙も追加しました。

また、ここに収められている語彙については、すべてを教えなくてはならないというものではありません。各現場の状況や必要に応じて、参考（資料）として選択し、また、その地域や現場で必要な語彙や表現を追加して下さい。

語彙の出典は以下の通りです。

1. 『にほんごをまなぼう』（1992）文部省、ぎょうせい
2. 『みんなの日本語初級Ⅰ』（1998）スリーエーネットワーク編、スリーエーネットワーク
3. 『日本語学級Ⅰ』（1999）大蔵守久、凡人社
4. 『日本語学級Ⅱ』（1999）大蔵守久、凡人社
5. 『こどものにほんごⅠ』（2002）西原鈴子監修、ひょうご日本語教師連絡会議。こどもの日本語研究会、スリーエーネットワーク
6. 『新版 みえこさんのにほんご』（2007）鹿嶋恵・石川博子、財団法人三重県国際交流財団
7. 『入国児童のための日本語教育』（1999）縫部義憲 スリーエーネットワーク
8. 『Somos Amigos! ともだちになろう：先生と生徒のための日本語・ポルトガル語会話集』（2003）豊橋市教育委員会、外国人児童生徒指導検討委員会

<語彙リスト作成方法・手順>

1. まず、上記 1～7 の出典ごとに語彙リストを作成し 1 つにまとめました。
2. その後、五十音順に並び替え、重なる語の削除、上記 8 より教科用語の追加、表記の統一など語彙の精査を行いました。
3. 『にほんごをまなぼう』（1992）の目次の項目をベースにタグを作成し、より利用者にわかりやすく、さらに必要であると思われるタグに精査しました。品詞については、形態素解析器 MeCab（IPA 辞書及び UniDic 辞書）を利用して品詞分解し、それを元に教室でよく利用される分類に編集しました。

4. 2で作成された語彙リストに、3で作成したタグを付けました。
5. 完成後に、再度、語彙とタグの見直しを行いました。

語彙検索関連参考資料 (PDF)

語彙検索画面の右上に「語彙検索関連参考資料 (PDF)」として、語彙データベースを補完し、指導の参考になる一覧表などをPDFで掲載しました。

● 語彙検索について

語彙検索のデータベースについて出典、作成方法などを掲載したものです。

● バトラー先生学習語彙リスト

バトラー後藤先生（ペンシルバニア大学教育学大学院准教授）が作成した「学習語彙リスト（暫定）」が掲載されています。この学習語彙リストは、「教科書コーパス」（国立国語研究所、2008）をもとに、中学3年生までの義務教育を終えるまでに、日本語学習児童・生徒、および日本語を母語とする児童・生徒のすべてが習得しておきたい学習語を選出し、頻度別、重要度別に並べたものです。特に、中学生を対象に学習支援や高校受験指導をしている日本語指導者、教育支援者などに、指導上の一つの目安となるものと思われます。教科書コーパスについての説明もこちらに記載し、「日本語コーパス」言語政策班が作成した成果物の中で、年少者の日本語教育に役立つと思われる「教科書コーパス語彙表」と「学校・社会対照語彙表」の一部を添付しました。

* バトラー語彙リスト修正（以下、複数回出てくる語彙に対し品詞の表記が抜けております。下記ご参照下さい。）

リスト2（頻度 高、重要度 中）

ただ（唯）→ ただ（唯）（接続）

リスト4（頻度 低、重要度 中）

わずか（僅か）→ わずか（僅か）（形状）

わずか（僅か）→ わずか（僅か）（副）

● 4 技能の評価事例

このPDFファイルでは、イギリスで開発された The Languages Ladder（言語の梯子段）^{はしごだん} に関して説明しています。「言語の梯子段」は、英国の子どもたちが外国語を学ぶ際に、習得状況を見極められるよう、4技能（聞く、話す、読む、書く）各々において何ができるかを確認する項目がリストアップされています。学習言語やレベル、習得技能が異なっても、学習者がそれぞれのペースで学習をすすめるため、また習得状況を見極めるための指針として利用されています。このファイルでは、英国「言語の梯子段」をもとに国際交流基金が開発した日本語の導入レベル（A1）と初級レベル（A2）の4技能に関する Can-Do Statements（キャン・ドゥ・ステートメント）を掲載しました。英国ではこの「言語の梯子段」は小中高での外国語教育だけでなく、成人の外国語教育、第2言語教育にも使われています。

Can-Do とは、「簡単な自己紹介ができる」「ゆっくりとした会話が理解できる」など言語機能に基づいた「できるかどうか (Can-Do) チェックリスト」です。項目をチェックしていくことで学習習熟度の目安になります。国際的な基準として欧州評議会の CEFR (欧州共通参照枠) がよく知られています。例えば「自分の名前や住所が言える」(A1 レベル)、「自分の体験や印象を綴った手紙が書ける」(B1 レベル) など、A1 (導入) ～C2 (流暢) の 6 段階において、4 技能の言語機能に基づいた Can-Do があります。

日本語の Can-Do については、国際交流基金が CEFR をもとにした「JF 日本語教育スタンダード」を公開しています。

● 各種語彙リスト

その他、教育漢字配当表 (2012 年 3 月現在)、暦日 (曜日と日付の読み方)、初級日本語テキストに頻出する形容詞、動詞、副詞的表現の指導計画例対応表、助数詞一覧表、気持ち・性格を表すことば (多言語) など語彙に関する一覧表を PDF 形式で納めました。

b. 文例検索

文型と文例をフリーワードで検索することができます。

文例の検索例

● 「～は～です」の検索

選択してください： ☐ 小学生低学年 ☐ 小学生中学年 ☐ 小学生高学年 ☐ 中学生

キーワード：

検 索

検索結果 47 件

指導計画例のトピック名、文型、文例が検索結果に表示されます。

トピック等	文型・文例
私のこと・先生のこと	Nは Nです わたしは エリスです 7 歳です ○○小学校 1 年 1 組、エリスです Nの N わたしの名前 学校の名前
私の / (ぼく) の持ち物	Nがありますか 鉛筆がありますか 下駄ががありますか はい、あります 「鉛筆がありますか」「はい、あります」 「ハンカチがありますか」「はい、あります」 いいえ、ありません 「傘がありますか」「いいえ、ありません」 「赤鉛筆がありますか」「いいえ、ありません」
	ここは Nです ここは職員室です ここは図書室です Nは どこですか

- N（名詞）、V（動詞）、形容詞（A）を使った検索

選択してください： ☐ 小学生低学年 ☐ 小学生中学年 ☐ 小学生高学年 ☐ 中学生

キーワード：

検 索

検索結果画面

1-5件/5件  

トピック等	文型・文例
私の顔/ぼくの顔	Nを Vましょう 顔をかきましょ 髪をかきましょ Nを Vてください 目をかいてください Aです 表いです これは黒板です あれは時計です
私の体/ぼくの体	Nを Vてください 頭をさわってください 鼻をさわってください
帰りの会	これから(今から) Nを Vます これから帰りの会を始めます 今から手紙を配ります Nに Nを Vてください うちの人に手紙を渡してください Vないでください あした宿題を忘れないでください

- その他の検索キーワード例

検索結果（例）

V ましょう 運動場に行きましょ（学校探検）

1 時間目は国語じゃありません

私は N は 好きじゃありません

私は牛乳は好きじゃありません

c. 教材検索

市販教材やこのサイトのオリジナル教材の検索ができます。さまざまな状況で利用できる冊子教材、絵カード、ワークシートが用意されています。JYL オリジナル教材、教室や指導者が提供して下さったワークシート、またマルチメディア「にほんごをまなぼう」の静止画像も教材データベースに含まれており、無償で利用可能です。

JYL Project
こどもの日本語ライブラリ

ユーザーログイン

HOME 指導計画例 ビデオライブラリ 基本検索 日本語指導Q&A

基本検索 — 教材

語彙 教材 文例 指導事例

JYL冊子教材(練習帳等)のダウンロードはこちら

フリーワード検索

教材の種類

☐ 主教材 ☐ 補助教材 ☐ 指導者用参考資料

教材形態で絞り込む

教材の形態

☐ 書籍 ☐ ワークシート ☐ 教具(カードなど) ☐ 電子メディア
☐ 辞書 ☐ その他(文献など)

指導項目で絞り込む

指導項目

☐ 表現・生活通応 ☐ 文字表記(かな・漢字) ☐ 作文 ☐ 読書
教科 ☐ 算数・数学 ☐ 理科(生活) ☐ 社会(生活) ☐ その他(体育・音楽など)

学齢で絞り込む

学 齢

☐ 小学生低学年 ☐ 小学生中学年 ☐ 小学生高学年 ☐ 中学生

「こどもの日本語ライブラリ」オリジナル教材で絞り込む

サイトオリジナル

☐ 「こどもの日本語ライブラリ」オリジナル教材

多言語対応の有無で絞り込む

多言語対応

☐ 有

検 索

指導計画例に基づいた
JYL オリジナル冊子教材

- かな練習帳
- 会話練習帳
- 漢字練習帳
- 作文練習帳

JYL オリジナル教材の検
索ができます。

JYL オリジナル教材について

基本検索「教材」のデータベースには、指導計画例の指導案で使い方を示した絵カード、ワークシート、冊子教材が掲載されています。これらも無償で利用できます。

冊子教材：

「こどもの日本語ライブラリ」に掲載されている指導計画例に基づいた練習帳を冊子としてダウンロードできます。

さっし きょうざい れんしゅうちょう

冊子教材（練習帳）

教材検索画面

「こどもの日本語ライブラリ」指導計画例に基づいた冊子教材です。
ダウンロードご希望の冊子教材をクリックして下さい。

かな練習帳【トピック】

しょうがくせい
小学生

ちゅうがくせい
中学生

かな練習帳【50音順】

ひらがな

カタカナ

かいわ
会話練習帳

しょうがくせい
小学生

ちゅうがくせい
中学生

かんじ
漢字練習帳

ちゅうごくごばん
中国語版

かんこく・ちようせんごばん
韓国・朝鮮語版

ぼるとがるごばん
ボルトガル語版

すぺいんごばん
スペイン語版

えいごばん
英語版

さくぶん
作文練習帳

じぶん
自分のことノート

絵カード：絵カードは、ことばや状況、場面に対応したイラストを用意しました。トピックや場面、状況を表す様々なカードが、小学生向け、中学生向けに用意されています。その場面で使うことば（例、「ありがとう」）を絵カードで見せながら言ったり、あるいは子どもに考えさせてことばを引き出したり、日本語のレベルの高い子どもには、状況の説明をしてもらうカードとしても利用できます。

また、通級前では分かりにくい、給食、掃除、中学校の行事などの学校生活に関連した内容も絵カードを使って親しめるよう工夫しました。紙芝居のように連続して見せることで理解を深める教材も掲載されています。

例：「嬉しい、悲しい、驚く、痛い、つまらない、怒る、怖い、さびしい、嫌だ、恥ずかしい」という感情の絵カード

JYL Project
こどもの日本語ライブラリ

ユーザーログイン

HOME 指導計画例 ビデオライブラリ 基本検索 日本語指導Q&A

基本検索 — 教材 [教材検索結果に戻る](#)

教材の詳細 【指導計画】共通 感情

種類:絵カード
発行(出版社):
著者・作成者:中田美苗
価格:円(税込)
コメント:
「嬉しい、悲しい、驚く、痛い、つまらない、怒る、怖い、さびしい、嫌だ、恥ずかしい」という感情の絵カード。

ダウンロード

目次:

場面	年齢	品詞	教科
日常生活	小1,小2,小3,小4,小5,中1,中2,中3	名詞	その他

【指導計画】小低 No. 75（国語）嬉しかったことで「うれしい」の絵カードを提示

【指導計画】中 No. 24 昨日したことで、過去の経験を語り、その感想を言う練習に利用する。

また、市販のテキスト、教材、子どもの日本語教育に関する本などもあります。日本語教室の先生が実際に使ってみた感想が活用のヒントとして掲載されているものもあります。

母語や第2言語を学んでいく過程では、目から入る情報とことばを結びつけるという認知活動が同時に行われています。母語と日本語を結びつける翻訳方法ではなく、絵カードや実物教材を使い、視覚を始めとする感覚を通して実際のモノや情報をことばと結びつける活動をすることで、日本語をより効果的に学習していくことができます。

d. 指導事例検索

日本語教室の先生方や、教室よりご提供いただいた指導案、指導法のヒントなどを掲載しております。

5. 著作権、ダウンロードなど

このサイトの全てのコンテンツの著作権は、特に表示がない限りは、文部科学省に帰属します。なお、ダウンロードできる素材など全ての内容は、公序良俗に反する目的に使用することはできません。その他、定めのない事項については、著作権法および関係法令に従うものとします。

文部科学省が著作権者となっているコンテンツについては、非営利目的の教育に関わる利用については、ダウンロード、印刷、複製は著作権者の許諾を必要としません。

文部科学省が著作権者ではないコンテンツ（例：基本検索「教材」よりダウンロード可能なマルチメディア『にほんごをまなぼう』（著者・作成：日本語指導教材研究会）の絵カード等）につきましては、教室内での使用のためのダウンロード・印刷・複製は可能ですが、それ以外につきましては著作権法及び関連法令に基づき著作権が保護されておりますのでご注意ください。